

## リーダーA

ジュニア・リーダーの発掘とスクーリングへの参加促進に向け、リーダーの運営参加の在り方やジュニア・リーダーの発掘方法、また新版ジュニア・リーダーテキストの利用方法について情報交換を行った。

<ジュニアの発掘とスクールへの参加促進>

### 1 班

問題点：愛知の事例の様にテキストを活用していきたいが、若いリーダーの団だとリーダー活動について答えられないケースが出てくる。

解決策：質問形式だけでなく、ディスカッション形式に変更あるいは、表現の仕方を易しくし、分かりやすくするのはどうか。

### 2 班

提案：テキストが、指導者と子供たちのパイプラインになればいいのではないか。

### 3 班

提案：テキストをジュニア・リーダーとシニア・リーダー取得までの復習教材として活用すればいいのではないか。

復習することでリーダー自身がテキストの内容を理解し、団員や他のリーダーたちに広めることができるのではないか。

### 4 班

提案：市町村ごとに教材が異なっていたが、新テキストを導入することで共通のテキストがもてる。それにより、仲間とのメッセージ交換ができるのではないか。また、子供が書いている内容を見て、リーダーたちが団員の意見をより引き出しやすくなるのではないか。

### 5 班

新旧両テキストの比較

比較：旧テキストには文字数が多いため、子供向けではない。メモ欄があるのはよい。

新テキストは、色鮮やかで写真もあり見栄えがよい。メモ欄をつけてほしい。

### 6 班

新テキストのメリット・デメリット

メリット：講義以外でもテキストを活用できる(活動全てにおいてテキストを活用できる)

例えば、ディスカッションやレクリエーションなど、また反省時の振り返りに

も使用できる。よりリーダーのことを知ってもらうことができる。

デメリット：シニア・リーダースクール、日独同時交流の内容を盛り込んで欲しかった。

シニア・リーダーへどのようにつなげていくのが課題である  
(リーダー会への加入、シニア・リーダースクールに対する認知)。

<ジュニア・リーダーの発掘と情報交換>

#### **1班**

- ・手紙などでコミュニケーションをとる。会議に呼ぶ。
- ・単位団、市で活動し広めて行く。その際に、指導者への働きかけも行っていく。
- ・縦のつながりだけでなく、横とのつながりもつくっていく。

#### **2班**

- ・事務局に任せているところを、自分たちリーダーから取り組んでいく。  
一人ひとりが自覚する
- ・リーダーの広報物を回覧板に挟み見ってもらう。

#### **3班**

- ・地域に活動を知ってもらうために、地域の活動にも参加していく。
- ・ジュニア・リーダーのスクーリングにリーダーたちを参加させてみる。
- ・団員との接点を増やす。

#### **4班**

- ・blankになる場合、広報(物)で関係を保つ。あるいはblank自体を作らない。
- ・ジュニア・リーダーのスクーリングを2回目以降も参加可とする。

#### **5班**

- ・少年団の指導者に対して、セミナーでもっとジュニア・リーダーについて説明を行っていく。
- ・兄弟や地域でPRを行っていく。

#### **6班**

- ・スクーリングの充実化。
- ・認定員や指導者の人数を増やす。
- ・団員にPRしていくために、各単位団に出向いていく。

## リーダーB

ジュニア・リーダーからシニア・リーダーを目指す団員をどのように導きだすかについて、ジュニア・リーダーの活動促進やシニア・リーダーへの情報提供の仕方の観点から情報交換を行った。また、日独同時交流への取り組みについても情報交換を行った。

<ジュニアからシニアへのステップアップ方策>

### 1 班

なぜ、シニア・リーダー資格を取得するのか。

2つの傾向(タイプ)があるのではないか。

「いいなあ」

- ・友達を作りたい。
- ・ドイツに行きたい。
- ・Tシャツが欲しい。

向上系

- ・レベルアップがしたい。
- ・憧れの先輩に近づきたい。

傾向(タイプ)によって、どう話をするか、説明するかポイントを変える工夫が必要！！

「活動促進」の仕方を変える」

であれば、ブロック別の少年大会への参加を紹介する。

であれば、活動(リーダーetc.)のサポート、あるいは実際に企画等をやらせてみる。

### 2 班

先輩・指導者から勧められて 自分の向上心へとつなげる

方針： 指導者から単位団の団員へのアピールを行う

リーダーが増える

後輩に伝えていく

後輩の憧れる先輩となる

シニアへのつながり

### 3 班

シニアのことをどこで知ったか

指導者、ドイツに行った先輩、シニア・リーダー

どうやって、シニア・リーダーを知らせるか

チラシ作り、TVCMを作成する

#### **4 班**

各県から現状報告を行い、共通点として挙げた点が以下の項目

- ・ジュニアを取得してから、シニア参加可能な年齢になるまでに期間が空く。
- ・リーダー会に入っている人が少ないため、シニアについての情報が不足する。

#### 解決策

- 単位団に帰って、リーダー会のことを団員に知ってもらう。
- 小学校とかに資料を配布し、リーダー会の知名度を上げる。

#### **5 班**

##### ジュニア活動の促進について

- ジュニアの活動をアルバムにまとめ、思い出作りを行う。
- 単位団に呼びかける。
- スポーツ大会への参加を呼びかける。
- ジュニアの年齢の幅を広げる。

##### ジュニア・リーダー取得後について

- 取得後に活動の場を与えてあげる。
- できないのであれば、交流会などに参加することでやる気の向上、スキルの向上をしながら、シニアへの準備を行う。

#### **6 班**

- シニア・リーダーを取得したリーダーが経験談を伝えていく。
- シニアとはどういったものか説明する。その際に、シニアでの活動風景をスクリーンに映すなど工夫を行う。

##### ジュニアを取得後、シニアへステップアップしない理由

- ジュニアを取得してもリーダー会へ加入しない。
- ジュニアとシニアの間にブランクがあるため、辞めてしまう団員がいる。
- 対策として、ジュニアを取得した団員をシニアに導くために、市のリーダー、県のリーダーが働きかけるようにする。

<日独同時交流（受入）への取り組み及び情報交換>

**1 班**

さよならパーティーに参加する。

**3 班**

日本語がぺらぺらの指導者もいた。

**4 班**

- ・地域別、単位団別に担当をローテーションし、つないでいく。
- ・単位団ではなく、市で受入を行う。
- ・リーダーはレクリエーションを考え、英語で説明できるようにする。
- ・リーダーとして、受入に関わっているところもあるが、関わっていないところもある。

**5 班**

- ・派遣について必ず 1 人は参加する県もある。
- ・さよならパーティーをいくつかの支部で持ちまわる県もある。
- ・ドイツの良い所（特典情報）を紹介する。
- ・ジュニアでパワーポイントなどを使用し、同時交流についてプレゼンを行う。
- ・リーダー会の報告会で同時交流について呼びかける。
- ・指導者への呼びかけを行う。

## 育成担当者

ジュニア・リーダー育成の中核であるスクーリングをより円滑に実施するために、運営方法およびテキストの活用方法についてのプログラム情報交換を通じて分析し、今後のジュニア・リーダースクールの在り方について検討を行った。

少年団とは     リーダーとは     スポーツ活動についてそれぞれ情報交換を行った。

<テキスト活用例の情報交換>

### 1 班

#### テキストを利用している県

<山口県>

- ・序章の“リーダーへのとびら”については、写真で示されているため子供が興味を持った(p.2 , 3)。
- ・第 1 章の“もっとスポーツ少年団を知ろう”については、スポーツ少年団の誕生や創設時の目的、また人数の推移が記載されているのは良いと思うが、各県のデータがあればさらに良いのではないかと(p.4)。
- ・第 1 章の活動分野については良いと思うが、単位団活動を支えるスポーツ少年団のしくみ(p . 7)や単位スポーツ少年団から日本スポーツ少年団まで ( p.8 ) については内容が難しいのではないかと。
- ・第 2 章“リーダーは何をするのかな”についての話し合いワーク ( p.13 ) を利用したことで、リーダー会への入会者が増えた。
- ・第 3 章“スポーツ遊びをしてみよう”の活動中に気をつけるポイント ( p.16 , 17 ) については、内容が難しい。
- ・付録のゴールに向かってのメッセージ欄は非常に良い。

<愛媛県>

- ・写真とイラストがあり ( マッチして ) よい。
- ・運動適性テストについてはすんなりとできた。

#### テキストを利用していない県

- ・登録団に関するデータは魅力がある ( p.22 ) <和歌山県>
- ・書き込みができる形式なので非常によいのでは。 <栃木県>
- ・テキストを今後利用したい。 <石川県>
- ・サイズが良く、カラーでページ数が少なくて良い等、目からの情報が入りやすい。
- ・話し合いワーク ( p.9 ) では、自分の少年団を振り返るのに良いため、利用すべき。

<大分県>

#### その他

- ・スポーツテスト、運動量の問題はどうするのか。

- ・団の歴史と県・市単位団については独自で資料を入れるのはどうか。
- ・食に関する内容を内容に含ませられないか。
- ・ゴールに向かって(p.24)はゴールの定義が決まっていないので、団それぞれで判断すべきなのか。

## 2 班

### 新版テキストについて

- ・開催する県によって、スクールの主旨をどこにおくかによって異なってくるのでは。
- ・旧版テキストには入っていて新版テキストには入っていない内容があるが、それについてはどうするのか。新版が各県に送付されてきたということは、全国統一してほしいということなのか、それについて説明してほしい。
- ・新版を基にしてやるのであれば、解説書的なものを作成してほしい。
- ・新版を基に講師独自のカラーを出すのもよいのでは。
- ・いきなり、新版が各県に送付されてきて、各県受け止め方も異なる。解説書的なものを作っただけであれば、講義する先生も助かるのではないか。
- ・新版テキストについては、指導者まで行き届いていない節がある。
- ・都道府県の事情にあったカリキュラムを基にして、改訂版を資料として補足すればよいが、最初から新版ありきではどうなのか。
- ・新版のテキストを基に、講師独自の工夫した講義もありではないか。

### 新版テキストとリーダー

- ・ドイツに行ったリーダーに体験談を発表させている。〈香川〉
- ・3ヶ月に1度新聞を作成し、指導者等へ配ってリーダー活動を周知してもらおう。〈宮崎〉
- ・ディスカッションを中心にテキストは補足として使うべき。
- ・テキストの“リーダーは何をするのか”(p.11)の項目欄については、自己評価にも他者評価にも使える。
- ・テキストではなく、体験談を語ってもらっているのが現状である。
- ・単位団の指導者からの指導、置かれている現状も大事。
- ・指導者や親からのコメントを書ける欄があるとよい。

## 3 班

### テキストの利用事例について

- ・見やすいが、内容が簡単すぎるのではないか。スクーリングでは新旧2冊とも使用した。  
〈千葉県〉
- ・グループ活動にテキストを取り入れることができた。記入してから話し合いがしやすくなり、グループごとで交流することができた。〈茨城〉

- ・初めてみた感想として、使用しやすい。最後の資料(ゴールに向かって p. 24)の使い方には、工夫が必要である。 <岩手>
- ・自分の講義の部分のみ使用したが、他の講師は旧版テキストを使用した。内容は現実に近く使いやすい。もう少し内容を(講師陣が)学習した上で使用していけば、もっとうまく伝えられたはず。 <三重>
- ・体力テストの判定表をつけて欲しい。 <広島>
- ・リーダー会の紹介や自県の活動を記入できる欄(p.13)をつくってほしい。「活動状況とは」という項目を増やすなど。 <広島>
- ・p.6の主となるスポーツ活動のところで、単一種目だけでなく複数種目にあげる例を教えれば良いと思う。 <広島>
- ・講師もリーダーも事前研修が必要である。 <鹿児島>
- ・旧版テキストについては内容が多すぎたように思えたが、新版テキストについてはポイントが明確である。 <兵庫>
- ・新版テキストにより、テストの問題が作りやすくなった。 <兵庫>
- ・高学年の団員にとっては分かりやすいと思う。 <兵庫>
- ・書き込み式(ワークシート形式)で活用しやすいが、氏名の記入欄や SHIPS についての内容は必要ではないか。 <兵庫>

### 活用法について

- ・礼儀、言葉遣い、しつけについて遊びを通して指導しており、1つの種目ではなく他の種目を取り入れる事例を取り上げてほしい(例えば、ユニホッケー、ニュースポーツなど遊びとトレーニングを兼ねるようなもの)。 <広島>
- ・スポーツの良さを伝えるだけでなく、安全管理(応急手当など)、グループ育成を含んでほしい。 <埼玉>
- ・自分たちのプログラムにどう役立てていくか。指導者向けの内容になっているのはいいか。章立てを「スポーツ遊びをしてみよう」から受けるものは、スポーツ遊びを実施するだけに思えるが運営するものとしてのスポーツ活動を、競技スポーツととらえるか、生涯スポーツとして捉えるか。 <茨城>
- ・ジュニア・リーダーに参加する団員は競技スポーツの傾向の団員が多い。競技スポーツの子が生涯スポーツに目を向けても良いのではないか。 <徳島>
- ・理想と現実とのギャップの問題。 <鹿児島>
- ・スポーツ遊びとスポーツ活動とのギャップがある。 <三重>
- ・団員には、スポーツ活動の前後の注意点を学ばせたい。 <長崎>